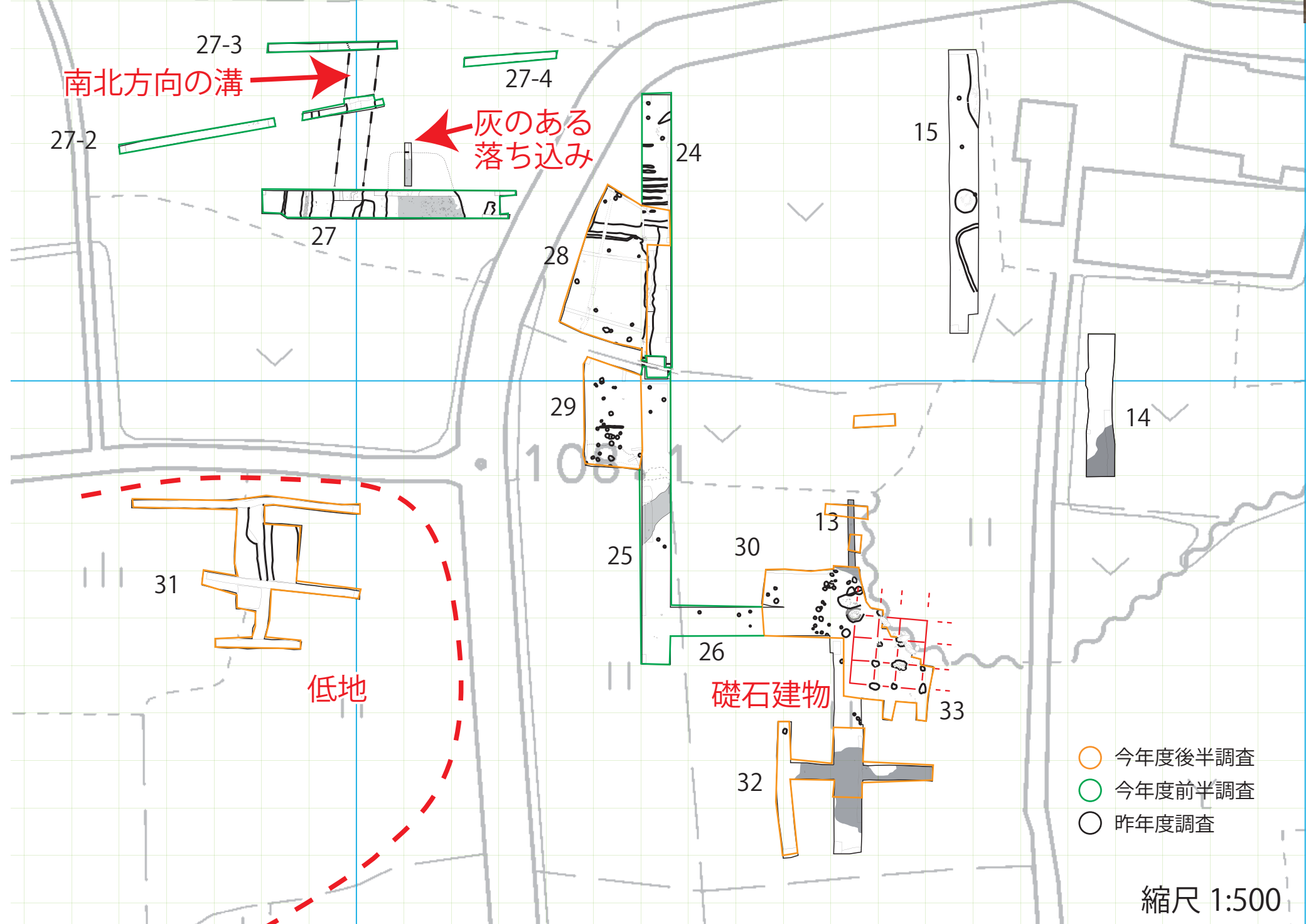




南北方向の溝 (27 トレンチ)
遺跡の西端を区画する溝と考えられます。幅約 3m、深さ約 80cm で、中から奈良時代の瓦が出土しました。



灰のある落ち込み (27 トレンチ：SK02)
直径約 7m の浅い落ち込みで、中ほどの深さに灰が広がっていました。灰の上からは瓦とともに焼けた土の塊が出土しました。製鉄炉の部材である可能性があります。



礎石（そせき）建物跡 (33 トレンチ)
建物の基礎の石（礎石）とともに、これをすえるための根石が見つかりました。柱の間隔は 8 尺（約 240cm）になります。

- 今年度後半調査
- 今年度前半調査
- 昨年度調査

縮尺 1:500

出土遺物

今回の調査では古代の土器や瓦のほか、鉄生産に関わる遺物が出土しました。中でも24トレンチから出土した須恵器の蓋や丸瓦は8世紀(奈良時代:今から1300年前)のもので、この溝が古代までさかのぼる可能性を示す貴重な資料です。また、27トレンチから出土した文字瓦や製鉄炉の部材の破片・廃棄物(鉄滓)も、周辺の土地利用を考える上で重要なものです。28・30トレンチで出土した瓦は付近に瓦葺建物が存在することを示していると考えられます。



須恵器 蓋
(24トレンチ SD01 出土)

須恵器 坏
(24トレンチ SD01 出土)

丸瓦
(24トレンチ SD01 出土)



文字瓦 「子」のへら書き
(27トレンチ SK02 出土)



平瓦 同心円文叩き
(27トレンチ SK02 出土)



鉄滓
ファイゴ羽口
てっさい はぐち
鉄滓・ファイゴ羽口破片
(27トレンチ出土)



焼土粒 製鉄関連の廃棄物か
(27トレンチ出土)



じゅうこもん
重弧文軒平瓦
(28トレンチ出土)



平瓦
(30トレンチ出土)



平成26年3月9日(日)

多胡碑周辺遺跡

第3次調査(平成25年度)

現地説明会

現在、高崎市教育委員会では、吉井町池地内において、多胡碑に関連のある遺跡の発掘調査を行っています。この発掘調査は、以前から多胡碑の周辺に推定されている古代多胡郡の役所(郡衙:ぐんが)および関連遺跡の場所を明らかにすることが目的です。

3年目にあたる今回の調査は、多胡碑から真南の一段高い段丘である岡地区を調査しました。8世紀(奈良時代:今から1300年前)の瓦が出土したほか、礎石^{そせき}建物跡、溝の跡などが見つかりました。



岡地区より多胡碑方面を望む(昨年度調査より)